

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	基礎柔整学Ⅴ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	森 俊明				
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。外傷の保存療法の経過及び治療の判定を理解し、説明できるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
2	1	2	鎖骨部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
3	1	2	肩部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
4	1	2	肩部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
5	1	2	肩部損傷時における保存療法の経過と治癒判定3		
6	1	2	上腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
7	1	2	上腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
8	1	2	上腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定3		
9	1	2	肘部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
10	1	2	肘部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
11	1	2	肘部損傷時における保存療法の経過と治癒判定3		
12	1	2	前腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
13	1	2	前腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
14	1	2	前腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定3		
15	1	2	前腕部損傷時における保存療法の経過と治癒判定4		
16	1	2	手部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
17	1	2	手部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
18	1	2	股関節部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
19	1	2	股関節部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
20	1	2	大腿部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
21	1	2	大腿部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
22	1	2	膝部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
23	1	2	膝部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
24	1	2	下腿部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
25	1	2	下腿部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
26	1	2	足部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
27	1	2	足部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
28	1	2	頭部・体幹部損傷時における保存療法の経過と治癒判定1		
29	1	2	頭部・体幹部損傷時における保存療法の経過と治癒判定2		
30	1	2	頭部・体幹部損傷時における保存療法の経過と治癒判定3		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂 柔道整復学実技編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	基礎柔整学VI		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	森 俊明・羽田 哲也				
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。患者に対して、損傷部の形態と機能、損傷の症状、損傷の保存療法、損傷の経過及び治癒過程の全体的な理解ができ、説明できるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨の性状と骨損傷の程度による保存療法考察		
2	1	2	開放性骨折時の対応と感染症		
3	1	2	種々の外力による骨折の型と力学1		
4	1	2	種々の外力による骨折の型と力学2		
5	1	2	骨折特有の症状		
6	1	2	上肢骨折の転位と筋の関係1		
7	1	2	上肢骨折の転位と筋の関係2		
8	1	2	上肢骨折の転位と筋の関係3		
9	1	2	上肢骨折の転位と筋の関係4		
10	1	2	下肢骨折の転位と筋の関係1		
11	1	2	下肢骨折の転位と筋の関係2		
12	1	2	下肢骨折の転位と筋の関係3		
13	1	2	種々の小児骨折とその留意点		
14	1	2	種々の高齢者骨折とその留意点		
15	1	2	骨折の修復過程と経過観察		
16	1	2	関節損傷の性状と内科疾患との鑑別		
17	1	2	脱臼の定義と分類、症状		
18	1	2	脱臼の合併症と予後		
19	1	2	筋、腱、神経損傷の分類と症状および治癒過程		
20	1	2	診察の要領と注意点考察		
21	1	2	各部骨折、脱臼における整復法考察1		
22	1	2	各部骨折、脱臼における整復法考察2		
23	1	2	各部の軟部組織損傷における処置法考察1		
24	1	2	各部の軟部組織損傷における処置法考察2		
25	1	2	各種外傷に合わせた固定法考察1		
26	1	2	各種外傷に合わせた固定法考察2		
27	1	2	外傷の種類および時期に合わせた後療法考察		
28	1	2	治療経過中の指導管理考察		
29	1	2	外傷予防1		
30	1	2	外傷予防2		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床柔整学Ⅶ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	赤尾 敬文 ・ 古川 清裕				
学習目標と講義概要	柔道整復師として治療にあたる際の身体各部位の可動域や外傷テスト法を理解することを目的とする。上肢、手指、下肢足趾、体幹の正常可動域、異常の疑いがある際の各部位テスト法や症状を理論的に把握し速やかな判断ができるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	肩関節の可動域と筋の作用		
2	1	2	肩部の疼痛パターンと徒手検査法1		
3	1	2	肩部の疼痛パターンと徒手検査法2		
4	1	2	肩部の疼痛パターンと徒手検査法3		
5	1	2	肘関節の可動域と筋の作用		
6	1	2	肘部の疼痛パターンと徒手検査法1		
7	1	2	肘部の疼痛パターンと徒手検査法2		
8	1	2	肘部の疼痛パターンと徒手検査法3		
9	1	2	手関節、指関節の可動域と筋の作用		
10	1	2	手部の疼痛パターンと徒手検査法1		
11	1	2	手部の疼痛パターンと徒手検査法2		
12	1	2	上肢の診察手順1		
13	1	2	上肢の診察手順2		
14	1	2	股関節の可動域と筋の作用		
15	1	2	股関節部の疼痛パターンと徒手検査法1		
16	1	2	股関節部の疼痛パターンと徒手検査法2		
17	1	2	膝関節の可動域と筋の作用		
18	1	2	膝部の疼痛パターンと徒手検査法1		
19	1	2	膝部の疼痛パターンと徒手検査法2		
20	1	2	足関節の可動域と筋の作用		
21	1	2	足部の疼痛パターンと徒手検査法1		
22	1	2	足部の疼痛パターンと徒手検査法2		
23	1	2	下肢の診察手順		
24	1	2	頸部椎間関節の可動域と筋の作用		
25	1	2	頸部の疼痛パターンと徒手検査法1		
26	1	2	頸部の疼痛パターンと徒手検査法2		
27	1	2	腰背部椎間関節の可動域と筋の作用		
28	1	2	腰背部の疼痛パターンと徒手検査法1		
29	1	2	腰背部の疼痛パターンと徒手検査法2		
30	1	2	頸部、腰背部の診察手順		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂					
教員について【実務経験有】 (古川先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (赤尾先生)担当教員は、柔道整復の教員資格ならびに鍼灸学修士(基礎医学分野)として、臨床経験と教員経験を積みつつ、大学講師として健康科学の授業も受け持っている。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床柔整学IX		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	赤尾 敬文 森 俊明				
学習目標と講義概要	柔道整復師として各外傷に対して実際の後療法について理解することを目的とする。特に物理療法において、超音波、超短波、低周波、高周波、干渉波、温熱治療器など、電気療法器具の種類や使い方、禁忌を把握し、外傷ごとに適応する器具の選択が速やかに行えるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	物理療法の分類と安全対策		
2	1	2	物理療法の禁忌と適応考察		
3	1	2	肩部損傷における物理療法の選択1		
4	1	2	肩部損傷における物理療法の選択2		
5	1	2	肩部損傷における物理療法の選択3		
6	1	2	上腕部損傷における物理療法の選択1		
7	1	2	上腕部損傷における物理療法の選択2		
8	1	2	上腕部損傷における物理療法の選択3		
9	1	2	肘部損傷における物理療法の選択1		
10	1	2	肘部損傷における物理療法の選択2		
11	1	2	肘部損傷における物理療法の選択3		
12	1	2	前腕部損傷における物理療法の選択1		
13	1	2	前腕部損傷における物理療法の選択2		
14	1	2	手部損傷における物理療法の選択1		
15	1	2	手部損傷における物理療法の選択2		
16	1	2	上肢の治癒経過1		
17	1	2	上肢の治癒経過2		
18	1	2	股関節部損傷における物理療法の選択		
19	1	2	大腿部損傷における物理療法の選択		
20	1	2	膝部損傷における物理療法の選択1		
21	1	2	膝部損傷における物理療法の選択2		
22	1	2	下腿部損傷における物理療法の選択1		
23	1	2	下腿部損傷における物理療法の選択2		
24	1	2	足部損傷における物理療法の選択1		
25	1	2	足部損傷における物理療法の選択2		
26	1	2	頭頸部損傷における物理療法の選択		
27	1	2	腰背部損傷における物理療法の選択1		
28	1	2	腰背部損傷における物理療法の選択2		
29	1	2	下肢、頭頸部、腰背部の治癒経過1		
30	1	2	下肢、頭頸部、腰背部の治癒経過2		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
(赤尾先生)担当教員は、柔道整復の教員資格ならびに鍼灸学修士(基礎医学分野)として、臨床経験と教員経験を積みつつ、大学講師として健康科学の授業も受け持っている。					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床柔整学Ⅹ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	赤尾 敬文・古川 清裕・森 俊明				
学習目標と講義概要	柔道整復師として現場に出た際、患者との信頼関係を構築し貢献できる医療人になるために必要な知識を身につけることを目的とする。受傷から治療、後療、その後の指導に至るまでのプロセスを理解し実践できるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	診察時の注意点と施術録		
2	1	2	整復、固定、後療法施行時の注意点		
3	1	2	治療経過中の指導管理		
4	1	2	肩部外傷時の治療プロセス1		
5	1	2	肩部外傷時の治療プロセス2		
6	1	2	肩部外傷時の治療プロセス3		
7	1	2	上腕部外傷時の治療プロセス1		
8	1	2	上腕部外傷時の治療プロセス2		
9	1	2	肘部外傷時の治療プロセス1		
10	1	2	肘部外傷時の治療プロセス2		
11	1	2	肘部外傷時の治療プロセス3		
12	1	2	前腕部外傷時の治療プロセス1		
13	1	2	前腕部外傷時の治療プロセス2		
14	1	2	前腕部外傷時の治療プロセス3		
15	1	2	手部外傷時の治療プロセス1		
16	1	2	手部外傷時の治療プロセス2		
17	1	2	手部外傷時の治療プロセス3		
18	1	2	股関節部外傷時の治療プロセス		
19	1	2	大腿部外傷時の治療プロセス1		
20	1	2	大腿部外傷時の治療プロセス2		
21	1	2	膝部外傷時の治療プロセス1		
22	1	2	膝部外傷時の治療プロセス2		
23	1	2	膝部外傷時の治療プロセス3		
24	1	2	下腿部外傷時の治療プロセス1		
25	1	2	下腿部外傷時の治療プロセス2		
26	1	2	足部外傷時の治療プロセス1		
27	1	2	足部外傷時の治療プロセス2		
28	1	2	頭・頸・胸・背部外傷時の治療プロセス1		
29	1	2	頭・頸・胸・背部外傷時の治療プロセス2		
30	1	2	頭・頸・胸・背部外傷時の治療プロセス3		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
(古川先生) 柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (赤尾先生) 担当教員は、柔道整復の教員資格ならびに鍼灸学修士(基礎医学分野)として、臨床経験と教員経験を積みつつ、大学講師として健康科学の授業も受け持っている。 (森先生) 接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床柔整学Ⅺ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	301教室
教員名	羽田 哲也 ・ 古川 清裕				
学習目標と講義概要	柔道整復学を理解した上で、臨床の現場で患者との信頼関係を構築し貢献できる医療人になるために必要な知識を身につけることを目的とする。業務範囲内の治療はもちろん、範囲外の外傷に対し、応急処置から医療機関への搬送、医師への状況説明文書および骨折、脱臼の際の協力病院への画像診断依頼など、スムーズに行える知識、心構えを植え付ける。柔道整復術適応の臨床的判定(医用画像の理解を含む。)を理解し、判断出来るようになる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	開放性骨折を起こしやすい骨折とその応急処置		
2	1	2	開放性骨折による感染症と予後		
3	1	2	徒手整復が適応しない骨折		
4	1	2	頭・頸・胸・背部損傷における観血療法1		
5	1	2	頭・頸・胸・背部損傷における観血療法2		
6	1	2	肩部損傷における観血療法1		
7	1	2	肩部損傷における観血療法2		
8	1	2	上腕部損傷における観血療法1		
9	1	2	上腕部損傷における観血療法2		
10	1	2	肘部損傷における観血療法1		
11	1	2	肘部損傷における観血療法2		
12	1	2	前腕部損傷における観血療法1		
13	1	2	前腕部損傷における観血療法2		
14	1	2	手部損傷における観血療法1		
15	1	2	手部損傷における観血療法2		
16	1	2	股関節損傷における観血療法1		
17	1	2	股関節損傷における観血療法2		
18	1	2	大腿部損傷における観血療法		
19	1	2	膝部損傷における観血療法1		
20	1	2	膝部損傷における観血療法2		
21	1	2	下腿部損傷における観血療法		
22	1	2	足部外傷における観血療法1		
23	1	2	足部外傷における観血療法2		
24	1	2	医接連携の実際1		
25	1	2	医接連携の実際2		
26	1	2	施術情報提供書作成		
27	1	2	紹介状作成		
28	1	2	依頼状作成		
29	1	2	各種書類作成復習1		
30	1	2	各種書類作成復習2		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】 (古川先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	応用実技Ⅱ		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	森 俊明				
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。上肢骨折および脱臼における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢骨折および脱臼における合併症		
2	1	2	上肢骨折に対する手技療法1		
3	1	2	上肢骨折に対する手技療法2		
4	1	2	上肢脱臼に対する手技療法1		
5	1	2	上肢脱臼に対する手技療法2		
6	1	2	上肢骨折に対する運動療法1		
7	1	2	上肢骨折に対する運動療法2		
8	1	2	上肢脱臼に対する運動療法1		
9	1	2	上肢脱臼に対する運動療法2		
10	1	2	上肢骨折に対する物理療法1		
11	1	2	上肢骨折に対する物理療法2		
12	1	2	上肢脱臼に対する物理療法1		
13	1	2	上肢脱臼に対する物理療法2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】 接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	応用実技Ⅲ		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	森 俊明				
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。下肢骨折および脱臼における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	下肢骨折および脱臼における合併症		
2	1	2	下肢骨折に対する手技療法1		
3	1	2	下肢骨折に対する手技療法2		
4	1	2	下肢脱臼に対する手技療法1		
5	1	2	下肢脱臼に対する手技療法2		
6	1	2	下肢骨折に対する運動療法1		
7	1	2	下肢骨折に対する運動療法2		
8	1	2	下肢脱臼に対する運動療法1		
9	1	2	下肢脱臼に対する運動療法2		
10	1	2	下肢骨折に対する物理療法1		
11	1	2	下肢骨折に対する物理療法2		
12	1	2	下肢脱臼に対する物理療法1		
13	1	2	下肢脱臼に対する物理療法2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】 接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	応用実技Ⅳ		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	森 俊明				
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。四肢軟部組織損傷における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	四肢軟部組織損傷における合併症		
2	1	2	上肢軟損に対する手技療法1		
3	1	2	上肢軟損に対する手技療法2		
4	1	2	上肢軟損に対する運動療法1		
5	1	2	上肢軟損に対する運動療法2		
6	1	2	上肢軟損に対する物理療法1		
7	1	2	上肢軟損に対する物理療法2		
8	1	2	下肢軟損に対する手技療法1		
9	1	2	下肢軟損に対する手技療法2		
10	1	2	下肢軟損に対する運動療法1		
11	1	2	下肢軟損に対する運動療法2		
12	1	2	下肢軟損に対する物理療法1		
13	1	2	下肢軟損に対する物理療法2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】 接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	総合実技Ⅱ		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	森 俊明・羽田 哲也				
学習目標と講義概要	高いレベルの専門知識と臨床に直結できる技術力を習得させ、即戦力として社会貢献できる柔道整復師の養成を目的とする。診察および整復における高度な触診技術の重要性について理解させ、骨および筋各部の触診技術を習得させる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢損傷時の細部触診1		
2	1	2	上肢損傷時の細部触診2		
3	1	2	上肢損傷時の細部触診3		
4	1	2	下肢損傷時の細部触診1		
5	1	2	下肢損傷時の細部触診2		
6	1	2	下肢損傷時の細部触診3		
7	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診1		
8	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診2		
9	1	2	診察演習1		
10	1	2	診察演習2		
11	1	2	診察演習3		
12	1	2	診察演習4		
13	1	2	診察演習5		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編: 南江堂 柔道整復学 理論編: 南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生) 接骨院にて約6年の経験がある。 (羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	総合実技Ⅲ		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	赤尾 敬文・古川 清裕・森 俊明				
学習目標と講義概要	柔道整復師として、高齢者及び競技者たいて、十分な外傷予防のできる柔道整復師の養成を目的とする。高齢者特有な外傷を理解し、その予防を実践的に指導出来るようにさせる。競技者特有な外傷を理解し、その予防を実践的に指導出来るようにさせる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	脆弱性骨折の発生機序1		
2	1	2	脆弱性骨折の発生機序2		
3	1	2	脆弱性骨折のリハビリテーション1		
4	1	2	脆弱性骨折のリハビリテーション2		
5	1	2	脆弱性骨折の予防1		
6	1	2	脆弱性骨折の予防2		
7	1	2	スポーツ外傷の発生機序1		
8	1	2	スポーツ外傷の発生機序2		
9	1	2	スポーツ外傷のリハビリテーション1		
10	1	2	スポーツ外傷のリハビリテーション2		
11	1	2	スポーツ外傷のリハビリテーション3		
12	1	2	スポーツ外傷の予防1		
13	1	2	スポーツ外傷の予防2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(古川先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (赤尾先生)担当教員は、柔道整復の教員資格ならびに鍼灸学修士(基礎医学分野)として、臨床経験と教員経験を積みつつ、大学講師として健康科学の授業も受け持っている。 (森先生)接骨院にて約6年の経験がある。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床実習Ⅲ		実習	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	臨床実習室
教員名	古川 清裕				
学習目標と講義概要	柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。 2年次の「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」での履修内容を踏まえて、実際の患者に対して病態評価に基づいた施術計画が立てられるようになる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	柔道整復師とは(目的)		
2	1	2	柔道整復師の業務範囲		
3	1	2	柔道整復師の心得と倫理		
4	1	2	診察		
5	1	2	痛みのメカニズム		
6	1	2	患者への評価		
7	1	2	治療法(冷却・固定等)		
8	1	2	外傷予防		
9	1	2	応急手当		
10	1	2	物理療法		
11	1	2	物理療法		
12	1	2	温熱療法		
13	1	2	温熱療法		
14	1	2	運動療法		
15	1	2	運動療法		
16	1	2	その他の治療方法		
17	1	2	その他の治療方法		
18	1	2	医療事故と医療過誤・ヒヤリハット		
19	1	2	リスク管理		
20	1	2	医療事故における患者への対応		
21	1	2	病態評価に基づいた施術計画の立案		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					

2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第3学年/夜間部
科目名	臨床実習Ⅳ		実習	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格	柔道整復師専科教員			使用教室	臨床実習室
教員名	古川 清裕				
学習目標と講義概要	柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。実際の患者に対して、病態評価に基づいた施術計画を説明できるようになる。患者に対して指導管理ができるようになる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
2	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
3	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
4	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
5	1	2	接骨院の患者への対応		
6	1	2	小児の患者のアプローチ		
7	1	2	小児の患者のアプローチ		
8	1	2	小児の患者のアプローチ		
9	1	2	小児の患者への対応		
10	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
11	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
12	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
13	1	2	高齢者の患者への対応		
14	1	2	スポーツ障害		
15	1	2	スポーツ障害		
16	1	2	スポーツ障害		
17	1	2	スポーツ障害の対応		
18	1	2	整形外科疾患		
19	1	2	整形外科疾患		
20	1	2	整形外科疾患の対応		
21	1	2	総まとめ		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂 柔道整復学実技編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、接骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					